

陽の里

発行 平成26年1月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.118

テーマ 共に働く社会を築く



▶「サンビレッジほづみ駅前」の屋上より撮影

新年を迎えて あけまして

おめでとうございませす



社会福祉法人 新生会

名誉理事長 石原美智子

一九七六年に生まれた私たちの新生会も、青年期から成熟期へとなって参りました。

法人も随分若返りました。多分、ご利用されている方もスタート時とは考え方も変化してきていると思われれます。制度も、スタート時は措置制度でしたが、今では介護保険を基礎にして、あらゆるサービスが生まれてきました。

私がこの仕事に携わるようになって暫くして、国家資格の介護福祉士が誕生しました。看護師ではない介護士の専門性とは何ぞや、をいつも考えました。そうしてやっと見つけたのです。その専門性を。

介護士の「視点」です。介護士は利用者の残った能力を探します。看護師が病気を探すのとは異なった視点です。その違いを、利用者者の生活の中でお互いに見つけたものを合わせあつて利用者を支えて行きます。そこに療法士が方法を加えて行きます。医療者がやつと生活視点を持つようになりましたが、ここに優秀な介護士の視点が加わった時に、本当の「生活の再生」が実現します。

私たちは今年も進化し続けて行きます。

共に働く社会を築く〜障がい雇用を通して〜

サンビレッジ新生苑 施設長

馬淵規嘉

私たちが目指そうとする社会とは、老いても、障がいを持っても「人として等しい社会」競争ではなく共生の社会の構築です。新生会の組織の考え方を示した一文です。

お年寄りの暮らしを支える介護には、食事・入浴・排泄・移動などの身体介助と暮らしやすさを整える掃除・洗濯・環境整備など生活支援と役割は様々です。施設を利用されるお年寄りも自身の出来ること・役割を持ち、それぞれの力を発揮されています。私たちは、「その方の持つ強み・出来ること」に目を向ける事が大切です。現在、法人全体で13名の方が、障がいを持って、共にお年寄りの暮らしを支える仲間として働いています。

洗濯ルームで、10年近く働く



▲大型乾燥機で一気にも多くの洗濯物を乾かしています

Aさんは毎日綺麗になった洗濯物をお年寄りに届けています。

「おはようございます。昨晩はよく眠られましたか?」「お食事はいかがでしたか」Aさんの元気な挨拶が聞こえます。

入社時は、洗濯機械の操作を覚えることで一杯でしたが、ジョブコーチの支援や制度を活用し、洗濯場のみならず色々な場所で耳を傾ける姿もあります。また、実習の支援学校の学生にも仕事を説明する場面では、活きいきと

した表情で活躍してくれています。共に働く私たちも彼らから学ぶことは多々あります。こうして一人から支援の輪が広がり、現在では池田・瑞穂・大垣など法人全体で障がい者雇用を実施しております。

昨年、岐阜県から「働きたい! ぎふ応援団サポーター企業」の登録を受けることになりました。このような取り組みが法人のみならず社会全体に広がることを願います。



▲入浴後の髪を乾かし気持ちよくセットします

リハビリセンター白鳥 デイサービス職員

三好千夏

私は前職で、病院で働いており、病氣という点に視点を置くため、「一人一人の生活」という点には中々視点が向けられませんでした。しかし現在は「一人一人の生活(生きがいや尊厳等)」を中心に考えて働くことができるため、一つ一つのケースに深みを感じながら関わることが出来ます。

例えば、利用される方の生活支援に携わるうえで、ご家族とのコミュニケーションは欠かせません。私たちだけでは知ることの難



▶より良いサービスを提供するため利用者の方の興味や得意点を生かしています

しい、これまでの自宅での過ごし方や家族との関わり方、昔の様子やこだわり、同時に本人の不安や家族の不安を教えてください、ともに支援が前進するようにサポートさせて頂くことは私のやりがいに繋がります。

また、施設入居をされる方の中には多くの方が在宅サービスを利用されていますが、在宅から施設に住み替えるに当たり在宅の担当ケアマネジャーの持っている情報を交換し在宅での生活を施設に活かしていく、又施設での生活の様子をご家族に伝えることで本人により良いサービスを提供でき



▲健康相談で話をうかがっています(右が三好)



▲リハビリセンター白鳥で活用しているマシンで下肢を鍛える

きることに繋がります。具体的な場面としては、担当者会議や退院カンファレンス等があげられます。担当者会議では、関わりのある方々や本人と顔を見合わせながら、今の状態や状況を多角的に評価し、より良いサービスを一緒に考えていくことができます。又退院カンファレンスは、入院中の様子を直接教えて頂くことで、退院後の医療との連携について確認を行い、その中でどう本人や家族が生活と向きあっていくかを考えていきます。

そして、日頃の関わりの中で、話を聴かせていただき、ご本人の大切な気持ちや想いが少しでも叶えられるように寄り添わせて頂くことにやりがいを感じます。

vol.4

「サンビレッジの仲間たち」

この仕事を辞められない理由って何？

大垣部門 もやいの家・津村リーダー 青田 稔子

私とサンビレッジの出会いには、26年前、知り合いから「サンビレッジが始めた保育所の保育の仕事やらない」との誘いから始まりました。そして母の入院を機に一度退職しましたが、数年後、介護職として再就職の機会を頂き、早16年目となります。自分にこの仕事を続ける意味を問いかけたとき、経済的理由よりも福祉の仕事に携わらせてもらいながら人の生き方について学ばせてもらえ、自分の生き方を考えさせてもらえ、こんな仕事は他にはないからと答えます。

「もやいの家・津村」(デイサービス) 配属当初、在宅サービスについて右も左も分からない状態の時、利用者が外へ出て行かれた事に気付かずにいきました。その利用者は外で転倒し、ご自分で通りがかりの人に声を掛け、救急車で病院に搬送されました。ケアマネジャーに連絡し、今後の対応策等伝え謝罪しましたが、当初は信頼関係も構築できていない状態であったため苦情へと繋がりました。その事で1ヶ月位、立ち直れなかつた事がありました。

しかし、今ではその学びをもとに、一人一人の利用者の方について情報をケアマネジャーに提供し、援助方法等を共有し、協力体制を築きながら、在宅生活の継続を支援する事ができてきました。その事が事業所の一番の強みとなっています。

これからも住み慣れた地域で認知症高齢者が安心して暮らし続けられる為の支援をスタッフ、家族、ケアマネジャー、地域と連携を図り、利用者一人一人の保持能力を引き出し、その人らしさをチームで支援していきたいと考えています。



リクエストに応じて「あゆのコース」に行ってきました(右が青田)

トピックス

～サンビレッジ福祉フェア2013～



障害を持って、介護が必要になっても安心して暮らせる情報を地域へ発信することを目的に、毎年恒例となった「サンビレッジ福祉フェア2013」を、11月16日サンビレッジ国際医療福祉専門学校で開催しました。

今年の目玉は、介護負担を軽減する移乗用具と入浴機器の展示。昨年度より多くの来場者が訪れ、移乗用具を試したり、実際に寝た姿勢で浴槽に入ったり、介護する側・される側を体験しました。

ケアコンテスト



11月22日に栄えある第2回新生グループ介護技術ケアコンテストが開催されました。100名以上のギャラリーが集うなか、4分野（排泄・入浴・食事・移動移乗）に約20名が出場し日頃の実践を皆に披露し学びを深めました。参加者も出場者も参加することで基本介護技術に立ち返ることができ、明日からの実践に生かしたいとの声も多く聞かれコンテストでの学びが、明日からの利用者の生活に生かせる事が何よりの収穫になりました。

～白鳥収穫祭を行いました！～



10月19日、リハビリセンター白鳥にて、白鳥収穫祭を行いました。

白鳥ファームさんの協力もあり、地元農産物の販売や、焼きとりなどの模擬店の他、東北支援の物産展、そして生活リハビリ、パワーリハビリの紹介、また利用者さんと作った組み紐などの販売会などを行いました。



利用者、ご家族の方をはじめ、白鳥区などから、多くの方に足を運びいただきました。ご来場ありがとうございました！

池田中学校の学生ボランティアさん、利用者さんの家族さん、お手伝いありがとうございました！

～岐阜シティ・タワー43 6周年～

10月19日、じゅうろくプラザで開催いたしました岐阜シティ・タワー43 6周年企画 市民講座「安かたにこまいか」が開催され、多くの来場者でにぎわいました。



来場者は、病院、福祉サービス、地域の公民館、司法書士、葬儀会社など、様々なブースを回り、専門家に、お金のことも含め、詳しいことを直接相談できる企画です。来場者の方にとって終末期を模擬体験することで、日ごろ抱えている不安や疑問と向き合い、考える良い機会となりました。

陽の里まつり



2回目となる学祭「陽の里まつり」は、運営・実行委員が中心となり「楽しみたい！」「楽しんでもらいたい！」と話し合いを重ねてきました。

当日は各委員、他の学生も協力し合うことでスムーズな進行ができました。他学科との交流や白鳥の利用者さんとの関わりを通じて、ハツラツとした学生は微笑ましいものでした。特に、実習でお世話になった利用者さんが会いに来てくださったのは嬉しかったようで、楽しそうに学校を案内する姿や、一緒に記念撮影をする様子も見られました。学祭を通じ、皆で一つの事を作り上げる達成感や、人をお招きする喜びを味わう事ができたように思います。

ご協力・ご来場いただきました多くの方々にお礼申し上げます。



編集後記・・・ 機関紙読者の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年の秋は例年に引き続き行事三昧でした。なかでも10月19日はシティタワー 43、サンビレッジ国際医療専門学校、白鳥の三ヶ所の会場にて賑わい、私もシティタワー 43 に出向き、来場者に有料老人ホームの紹介をさせて頂き、緊張の一日を体験しました。

さて、今年も前年同様の機関紙委員でホットな情報を届けてまいりますので、皆様次号をお楽しみに！今回トピックス担当は「微笑みの天使」サンビレッジほづみ駅前の鈴木でした。